

神楽名

しも かわ のぼり 下川登神楽

伝承地

下川登地区
高千穂町大字三田井

指定等

国指定重要無形民俗文化財

伝承団体

下川登神楽保存会
代表 橋本 研一



杉登り

◆ 神楽の概要・由来・その他

高千穂神楽の三田井系統に属する神楽である。三田井地区は高千穂町の中心部に位置しており、その中でも下川登は農地と新興住宅地が混在している地域である。昭和30年頃に高度成長期に入り、人々の流出があったことから演目数が減り、夜神楽から日神楽に変わったが、その後昭和54年に夜神楽が再開され今日まで続いている。同じ三田井地区の^{あさかべ}浅ヶ部神楽保存会より途切れた演目を伝習して、現在は33番を奉納している。

氏神社である逢初天神宮は、江戸初期の高千穂庄神明帳には、高千穂八十八社の一社として「長崎 年大明神」と記され、生徳3年(1713)の神社改書上帳には「^{かのみやはくにかつ}彼宮者、國勝^{ことかつ}事勝と申翁宮也、同所に森天神、あひそめ川、中園天神有り」と記されている。明治17年(1884)に発行された^{ひらべきょうなん}平部嶺南著「日向地誌」には川登神社とあり、現在は「^{あいそめ}逢初天神社」として三社神が合祀神として祀られている。

◆ 芸能の機会・場所

- 下川登夜神楽… 11月の最初の土・日曜日、^{あいそめ}逢初天神宮にて神事後、下川登公民館にて奉納
- ^{はいたか}拝鷹天神日神楽

◆ 演目一覧

宮神楽	道行き	舞込み	^{みこうや} 御神屋始め	^{ひこまい} 彦舞	^{たいどの} 太殿	^{かみおろし} 神嵐
鎮守	杉登り	^{じがため} 地固	^{へいかんぜ} 弊神添	住吉	八鉢	^{おきえ} 沖逢
^{たちかんぜ} 太刀神添	五穀	^{ゆみしょうご} 弓正護	御神体	^{ほんはな} 本花	^{いわくぐ} 岩潜り	^{そではな} 袖花
^{ぶち} 武智	^{しちきじん} 七鬼神	^{やまもり} 山森	^{だいじん} 大神	^{じわり} 地割	日の前	^{しばひき} 柴引
伊勢神楽	^{たちからおのみこと} 手力男命	^{うずめのみこと} 鈿女命	^{ととり} 戸取	^{まいびらき} 舞開	^{おんしば} 御柴	^{しめぐち} 注連口
^{くりおろし} 繰下	^{くもおろし} 雲下					

※平成26年度の神楽奉納番付に基づく

❖ 演目の特徴

浅ヶ部神楽と同様に、前半は祓い清めの舞や諸々の神を招く舞が続き、深夜には「目覚まし神楽」とも呼ばれる「御神体」「八鉢」などの面白い舞がある。岩戸開きの神話にちなんだ「岩戸五番」（「柴引」「伊勢」「手力男」「鈿女」「戸取」「舞開」の六番）は高千穂神楽の代表的な神楽であり、夜明けに奉納される。最後に「注連神楽」として「注連口」「繰下」「雲下」で神々を送って終了する。

❖ その他の特徴

- 面... 拝鷹天神、稲荷、逢初（復刻）、鈿女 等
- 楽... 太鼓、笛
- 装束... 白衣、白袴、素襖、千早、裁着袴、毛笠、どっさり、烏帽子、天冠 等
- 採り物... 鈴、榊、扇、御幣、杖（荒神杖等）、弓、矢、刀、麻緒、折敷、帯 等
- 文書... 「高千穂岩戸神楽」（昭和13年高千穂町教育委員会）を教書としている

❖ 伝承の現状・課題

三田井地区の浅ヶ部、本組、後川内、上川登の保存会は、夜神楽並びに日神楽を互いに協力・研鑽し合い伝承を守ってきた。またこの地区は高千穂神社の周辺に位置しており、高千穂神社や櫛觸神社の祭事などでも神楽を奉納する。住民の多い地域で、子供の頃から神楽を習うなど後継者も育てっており、舞い手（祝子者）の数も多い。



地固



八鉢



手力男命